

● 低炭素型まちづくりの推進

《駅周辺整備における位置づけ》

- ・ 長崎駅周辺地区は、「長崎駅周辺まちづくり基本計画」において、長崎湾へ開け浦上川に面した特性を活かした、水と緑のネットワークの形成や緑化の推進、未利用再生可能エネルギーの利活用など、潤いのある持続可能な低炭素まちづくりを目指すこととしている。また、「長崎駅周辺まちづくりガイドライン」の中では、「環境への配慮」としてルールを定め、良好な環境形成を誘導する仕組みとしている。
- ・ このようなことから、駅周辺地区まちづくりにあたっては、長崎特有の地形や日照、風といった自然特性や、利用率の高い公共交通などの社会特性、さらには、近接する海や、整備が進められている緑のネットワーク等の環境特性を活かし、ゆとりとやすらぎのある低炭素型の都市空間を形成する。
- ・ 長崎市の全天日射量の平均値は、他の地域と比較して高い水準であり、太陽光発電に有利な地域であるといえる。(下図参照)

《基本的な方向性》

- ・ 公共・民間空間における太陽光発電などの未利用・再生可能エネルギーの導入を積極的に検討する
- <行政>
- ・ 長崎駅周辺（駅舎及びその周辺）のデザインに配慮しながら、公共用歩廊やバス・タクシーシェルター上屋などを活用し、太陽光発電などの施設の設置を検討する。
- <事業者>
- ・ 長崎駅周辺（駅舎及びその周辺）のデザインに配慮しながら、建築物上屋などを活用し、太陽光発電などの施設の設置を検討する。

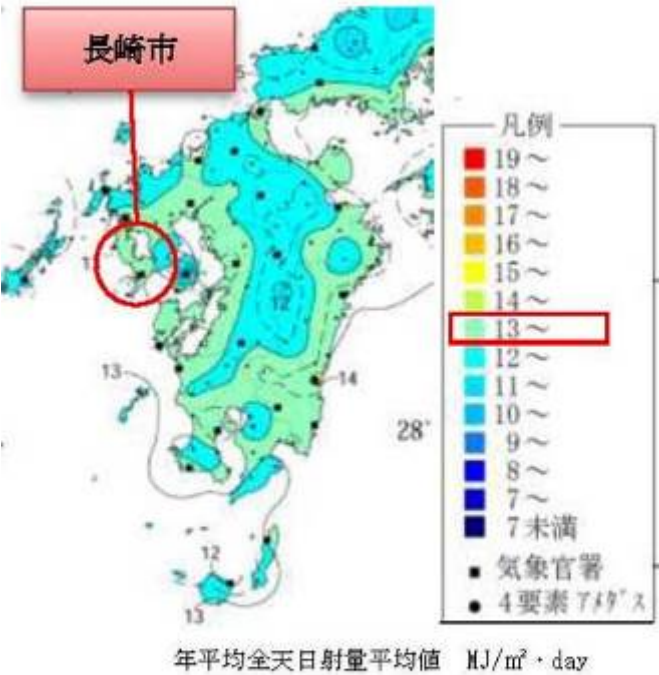


図- 長崎市の全天日射量平均値分布図

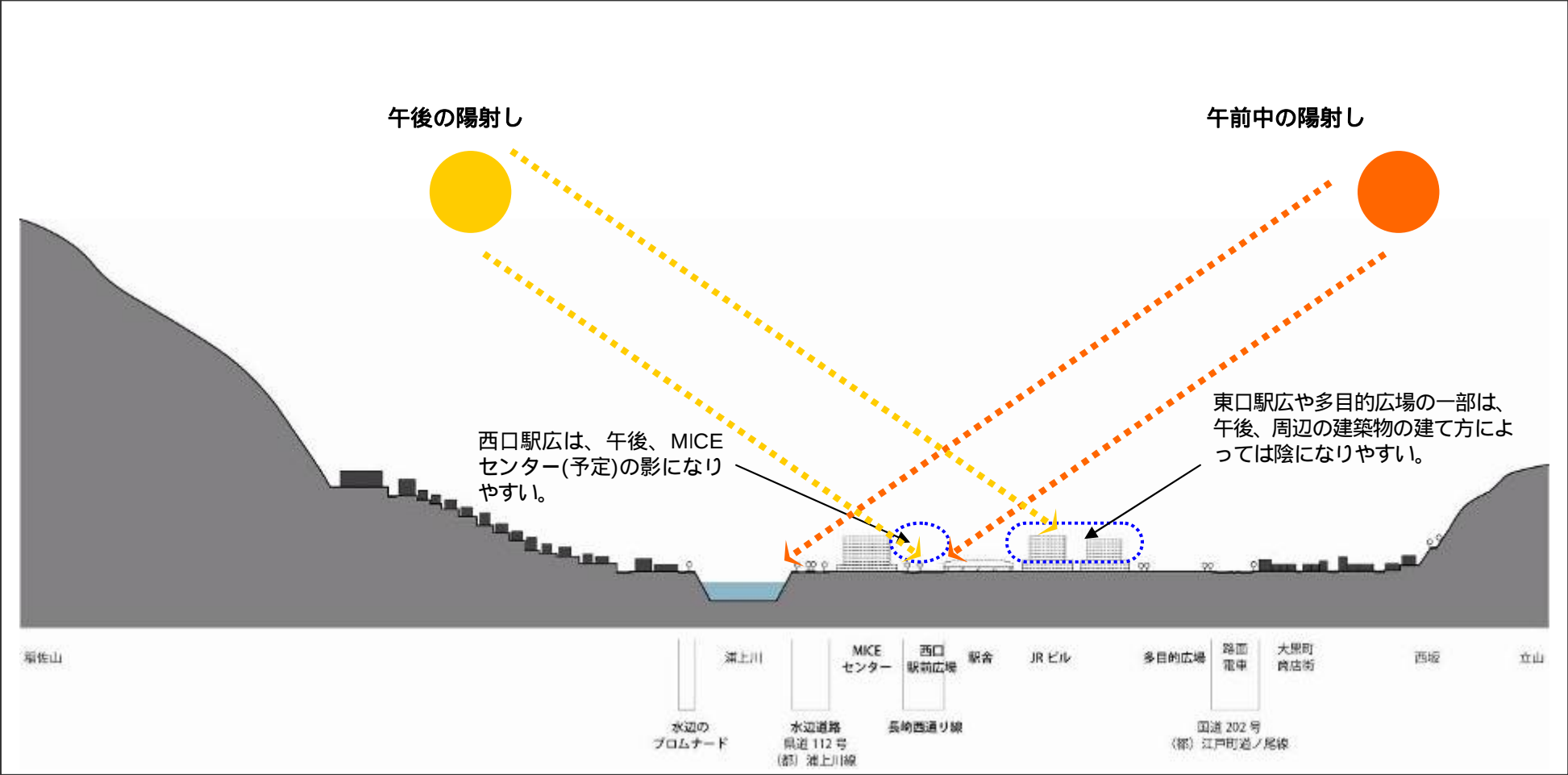
出典：NEDO（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構  
日射量データベース全国日射量マップ 1981～2009

● 日常の“陽射し”への配慮

- ・ 長崎駅の立地条件(ロケーション等)から、季節の変化や時間の変化に応じた自然光の取り入れ方等について、各事業施設相互の配慮と協調等が求められる。

《配慮事項》

- ・ 駅舎、駅前広場、街路等の公共空間設計のみならず、周辺施設設計においても、季節に応じた採光に配慮し、歩行者等へ快適な環境を提供できるように検討を行っていく。



### -3. “水”と“緑”ネットワークづくりの推進

#### ● “水”と“緑”のネットワークづくりと低炭素型まちづくり

##### 《基本的な方向性》

公共・民間空間や建築物などへの緑化の推進  
低炭素型まちづくり推進の観点から長崎駅周辺地区においては、公共・民間空間では、“水と緑のネットワーク”の形成を図り、建築物などの屋上や壁面、又は敷地において、緑化を行うことにより、外気温の上昇の緩和に配慮することが求められる。

##### <行政>

- ・公共空間での中高木の植栽による緑陰の形成や風通しを確保する。

##### <行政および事業者>

- ・長崎駅周辺地区計画に基づき、緑化率を確保する。
- ・宅地内沿道の外壁後退部分などに、積極的に中高木による緑化を推進する。

##### 《新しい「緑のネットワーク」整備》

- ・既成市街地内には、まとまった規模の緑地は少ないが、「環長崎港地域アーバンデザイン会議」等によりウォーターフロント沿いに新しい緑のネットワークが創り出されている。
- ・駅周辺エリアにおいても、緑のネットワークを分断することのないよう、緑地を創出してゆく。

#### - 新しい「緑のネットワーク」の整備事例 -

##### ■ 長崎港松が枝国際観光船埠頭

- 2011年度 長崎市都市景観賞 受賞
- 2011年度 グッドデザイン賞  
建築・環境デザイン部門【優秀賞】受賞
- 土木学会デザイン賞2013  
【優秀賞】受賞



#### - 新しい「緑のネットワーク」の整備事例 -

##### ■ 長崎水辺の森公園

- 2004年度 グッドデザイン賞  
建築・環境デザイン部門【金賞】受賞
- 土木学会デザイン賞2006  
【優秀賞】受賞
- 2013年度長崎市 都市景観賞 受賞

- 「土地の記憶」を継承する大地の舞台」をデザインコンセプトとして、水路によって縁取られた3つのエリアを、それぞれの特性を活かしたランドスケープとなるようデザイン。
- 3つのエリアを繋ぐ橋梁が公園内にいくつも架かり、個性的な景観を有する公園。

##### 【長崎水辺の森公園 全体風景】



##### 【水の庭園 水の劇場】



- 出島バイパス(オランダ坂トンネル)からの湧水を噴水やせせらぎとして利用。
- 噴水の水は石組みのカスケードとなって流れ、強い陽差しの中で、訪れた人々に「涼」を提供。

##### 【大地の広場 月の舞台】



- メインゲートから女神大橋軸に沿って階段を昇ると港の風景が一望。
- 8本のブロンズの柱が場のシンボル性を表現。

##### 【水辺のプロムナード 記憶の回廊】



- 水路に平行に延び、花と緑が溢れる散策空間として、訪れた人々に憩いと安らぎを提供。

##### 【水辺のプロムナード 森の劇場】



- 花の小島と向かい合った芝生の野外劇場。
- 傾斜のついた芝は子どもたちの格好の遊び場。

#### -4. “風”の通り抜けに配慮した空間形成

##### ● 低炭素型まちづくりの方向性

- ・ 長崎駅周辺地区においては、街路樹や宅地内緑地を誘導することによって、長崎港からの連続した水と緑のネットワークを形成し、卓越風が市街地を通り抜けるヒートアイランド緩和に配慮したまちづくりを進めることとする。

##### 《基本的な方向性》

風の通り抜けに配慮した空間の形成

長崎港からの風の道を確保することにより、熱の滞留を防ぎ、外気温の上昇を緩和させる。

<行 政および事業者>

取り組み内容

- ・ 長崎駅周辺地区計画に定められる壁面後退に基づき、宅地内空地を確保する。

##### ● 湾口から吹く夏の卓越風

長崎市中心部は、長崎湾(南西方向)から、夏の卓越風が吹き、地形に沿った風の流れが認められる。

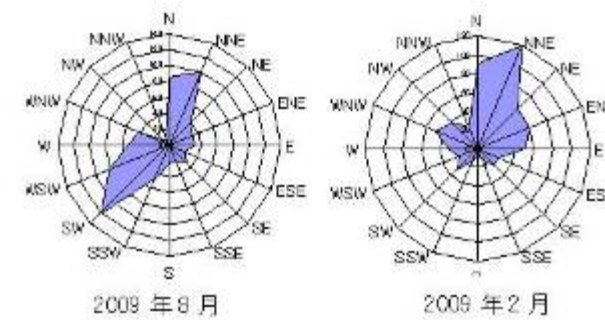
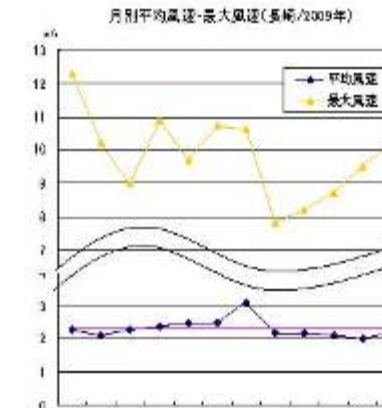


図- 長崎の風配図(夏・冬)

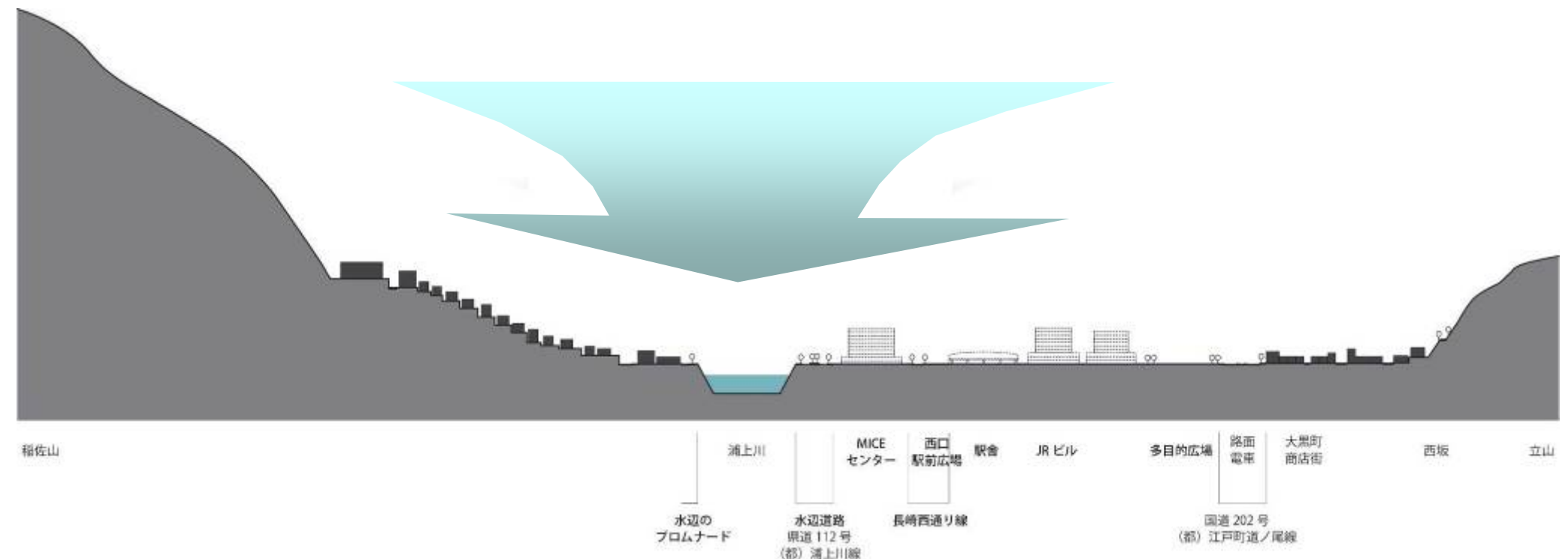
出典：長崎海洋気象台データ



年平均風速  
2.3m/s

図- 長崎市の風速

出典：気象庁 HP 2009 年データ



## -5 “色彩”のコントロール

### ● 長崎市景観計画(一般地区)における景観形成基準

(長崎市景観計画における良好な景観の形成のための行為の制限のうち、「色彩」に関しては、以下のように定められている。

- ・ 外壁または外観の基調となる色彩は、マンセル表色系において、次のとおりとする。

| 色相            | 明度          | 彩度    |
|---------------|-------------|-------|
| R系、GY系        | 4.0以上～9.0以下 | 2.0以下 |
| YR系           | 4.0以上～4.5未満 | 4.0以下 |
|               | 4.5以上～5.0未満 | 5.0以下 |
|               | 5.0以上～5.5未満 | 6.0以下 |
|               | 5.5以上～6.5以下 | 4.0以下 |
|               | 6.5超～9.0以下  | 3.0以下 |
| Y系            | 4.0以上～9.0以下 | 3.0以下 |
| G系、BG系、P系、RP系 | 4.0以上～9.0以下 | 1.0以下 |
| B系、PB系        | 4.0以上～5.0未満 | 1.0以下 |
|               | 5.0以上～9.0以下 | 2.0以下 |
| N系            | 4.0以上～9.0以下 |       |

- ・ 高架水槽、空調屋外機などの建築物の付帯設備、その他、歩行者の目線に近い位置に設置する設備等は、周囲の景観に調和した色彩とする。  
ただし、次に該当するものについては、この限りではない。
- ・ 石材、れんが等の素材の色及びアクセントカラー(外壁の各方面の見付け面積の各10%以内とする)
- ・ 周辺景観への影響がないと市長が認めるもの

### ● 建築物等のデザインについて

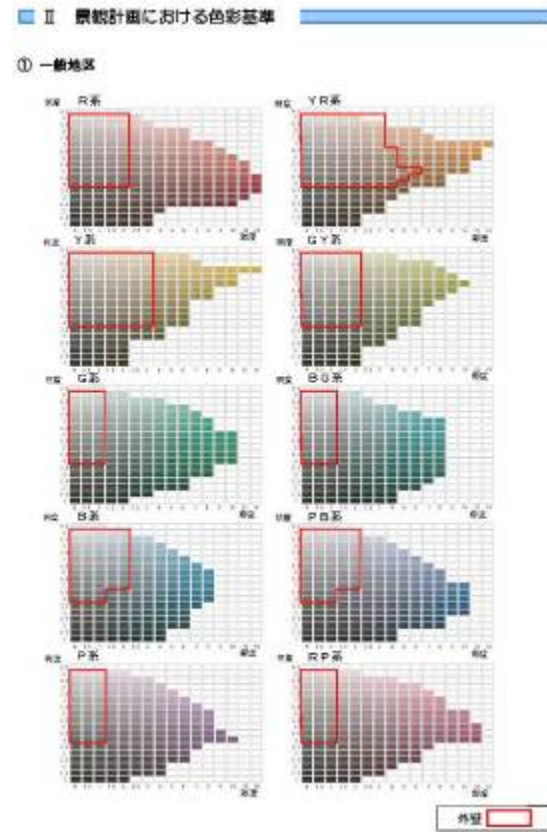
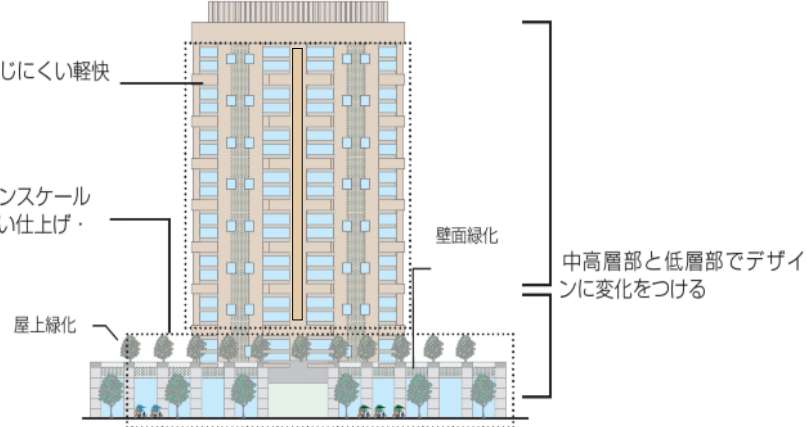
(「長崎駅周辺まちづくりガイドライン」より)

- ・ 建築物の屋根、外壁及び外部に面する柱等の彩度は、高彩度を避け、周辺の景観と調和した落ち着いた色調とする。
- ・ 特に建築物の高層部の色は、高明度・低彩度にして圧迫感を軽減する。

□外壁の分節デザインの考え方

中高層部は威圧感を感じにくい軽快で落ち着いたデザイン

低層部はよりヒューマンスケールを感じさせるきめ細かい仕上げ・デザイン



### ■ 参考事例3 (横浜 みなとみらい 21 中央地区・都市景観形成ガイドライン)

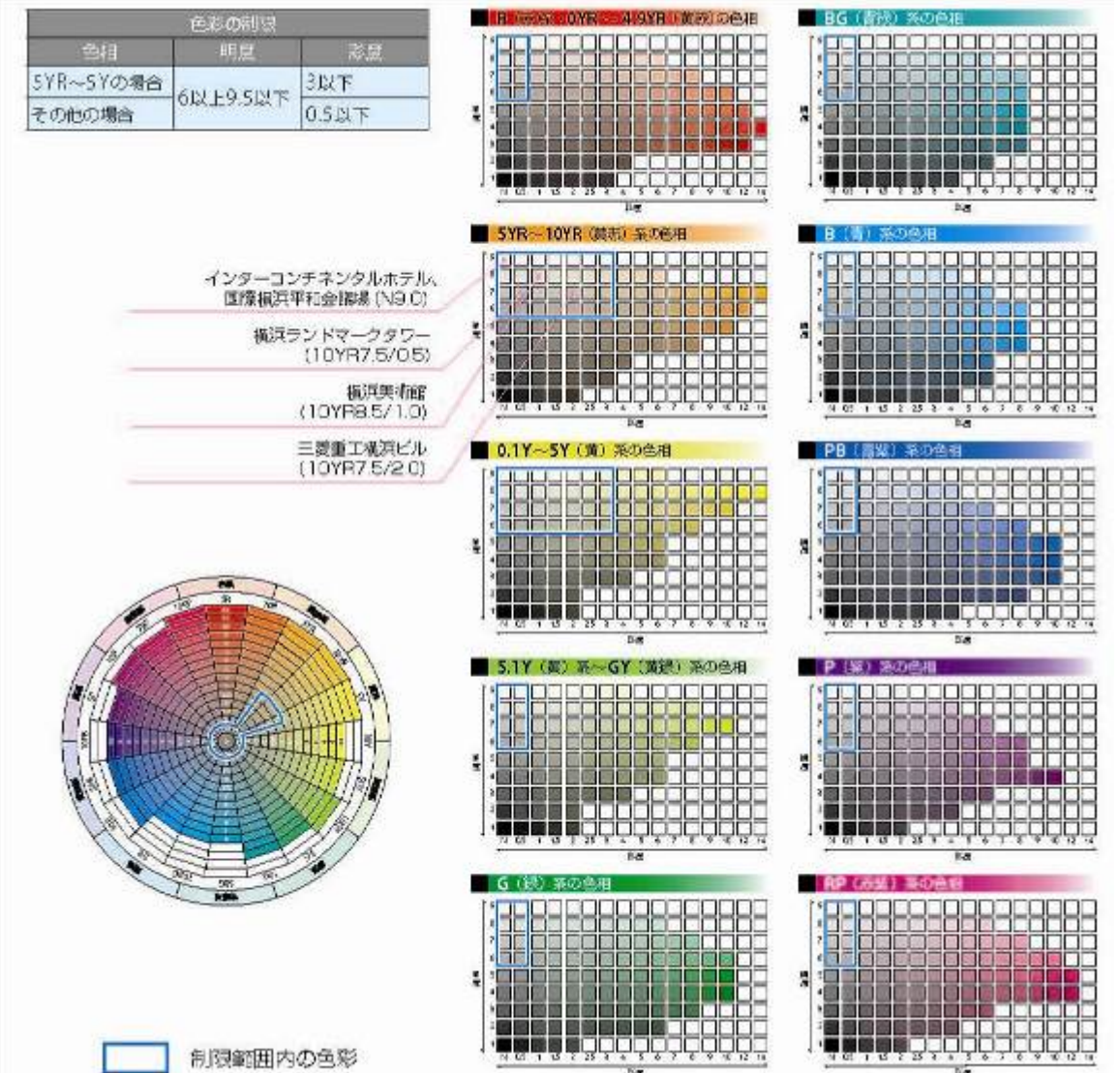
建築物の色彩は、蛍光色を用いず、かつ、マンセル表色系で別表1のものを基調とするものとする。ただし、周辺の景観及び建築物全体の形態意匠と調和していると市長が認めるものはこの限りでない

- 低層部においてはにぎわい創出のため、建築デザインとの調和を図りながら色使いを工夫し、次の範囲内でかつ景観に配慮したものについては、基調色以外の色(アクセント色)を使用できる。
- Low-eガラス等の外装材を主体に用いる場合は、周辺景観の映し込みや光線の反射に十分配慮するとともに、基調色を用いた外壁を部分的に使用するなど周囲と調和した景観の形成に配慮する。
- 市長が認めるものには、街のにぎわい創出や活性化を目的としたエリアマネジメント活動( )によるもので、周囲の景観に配慮されたものを含む。

<ゾーンごとの色彩景観の考え方>

【水辺のゾーン】

- ・ 海辺や運河沿いのエリアには、白いタイルを基調とした明るく開放的なデザインの建築物が連なり、海辺の街の存在感を際立たせている。
- ・ このエリアでは明度8.5～9程度の明るい無彩色や彩度1以下程度のごく低彩度色を基調とすることで、「明るく品格のある」水辺の連続性を保つことができる。



## -5 “素材”の活用

### ● 【景観形成の方針】

(「長崎市景観計画」より)

- ・地元の素材を使用した石垣や伝統的な建物など、地域の風土と生業が一体となった景観の保全に努める。

#### 【環長崎港アーバンデザイン会議からの意見】

- ・既設の石積みは歴史的な意義があるものなので、加工してでも再利用した方がよい。
- ・ボードウォークについては、素材、デザイン、工法の少なくともどれかを統一する方がよい。(平成18年3月会議より元船物揚場について)

- ・鉄筋コンクリートは潮に弱い、木材は潮に強く温かみもある。耐火性能に支障のない範囲で、もっと木材の活用を考えてほしい。

(平成20年10月会議より松が枝国際観光船ふ頭について)



▲桜町通りの石畳(砂岩・諫早石)



▲旧国道の橋台跡(レンガ造)-現在の元船遊歩道脇



▲水辺のプロムナード(ボードウォーク)



▲松が枝国際観光船ふ頭(砂岩(諫早石)舗装)

- 旭町地区第一種市街地再開発事業(タワーシティ長崎)

#### 【設計コンセプト】

- ・全面に広がる長崎港、背後にそびえる稲佐山。長崎ウォーターフロントの風景の一部を形成する。海や山の雄大な自然と調和するヒューマンな空間を創り上げることをデザインコンセプトとし、公共スペースには、木製ルーバーや木製パーゴラを採用。自然素材を活かした安らぎの広場を演出する。人工的で無機質な印象を与えがちなビル建設も、自然の緑をあしらうことで、生き生きとした表情を創りだすとともに、高台からの景観や地域環境に配慮している。

#### 【環長崎港アーバンデザイン会議からの意見】

- ・長崎の歴史と文化の象徴であるレンガ色を基調にしたと言うが、歴史的建造物ならまだしも、新しい建造物には意味がない。ボリュームが大きいので目立たないようにすべきで、周囲の港の景観、背景となる山の緑との調和を考えると、白に近い淡い色がよい。(平成13年2月会議より旭町再開発ビルについて)

- 長崎 AIG ビル(現メットライフアリコ長崎ビル)

#### 【設計コンセプト】

- ・AIG 長崎ビルの所在地は長崎県の大プロジェクトでもある出島地区に立地する。公園地域という立地を踏まえ、周囲の緑地にとけこむエコロジカルな設計思想を基本とし「緑のビル」をキーワードに屋上を緑化し、ビルの周囲にも長崎県の木「ナンキンハゼ」を植樹している。
- また社屋の一部を「シビックスペース(公共スペース)」として、長崎市民に開放するなど、地域密着・地域貢献を目指している。

#### 【環長崎港アーバンデザイン会議からの意見】

- ・建物のデザインカラーは白が良い。汚れが目立たない範囲で、できるだけ白に近い色にしてほしい。(平成16年5月会議よりAIGビルについて)

